

■ 本文

ゆく河の流れは絶えずして〔①〕、しかももとの水にあらず〔②〕。よどみに浮かぶうたかた〔③〕は、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし〔④〕。世の中にある人と栖と、またかくのごとし〔⑤〕。

■ 設問 (全20問)

- 傍線部①「絶えずして」を現代語訳しなさい。
- 傍線部①「絶えずして」の「ず」は何という助動詞か、活用形もふくめて文法的に説明しなさい。
- 傍線部②「もとの水にあらず」を現代語訳しなさい。
- 傍線部②「あらず」を品詞分解し、それぞれの語を説明しなさい。
- 傍線部②「もとの水にあらず」の「に」は、文法的に何か。助動詞の名前と活用形を答えなさい。
- 「よどみに浮かぶ」の「よどみ」とは、どのような場所を指すか答えなさい。
- 傍線部③「うたかた」とは何か、意味を答えなさい。
- 傍線部③「うたかた」は、ここで何の（どのようなものの）たとえとして用いられているか説明しなさい。
- 本文中の「かつ消えかつ結びて」を現代語訳しなさい。
- 「かつ消えかつ結びて」の「結び」を、終止形（基本形）に直し、活用の種類（○行○段）も答えなさい。
- 傍線部④「久しくとどまりたるためしなし」を現代語訳しなさい。
- 「ためし」（傍線部④の中にある語）の意味を答えなさい。
- 傍線部⑤「世の中にある人と栖と、またかくのごとし」を現代語訳しなさい。
- 傍線部⑤の「栖」の読み方をひらがなで答え、その意味も答えなさい。
- 傍線部⑤「かくのごとし」の「ごとし」は何という助動詞か。意味（はたらき）もふくめて答えなさい。
- 「ゆく河の流れ」と「うたかた（泡）」は、人の世の何にたとえられているか。傍線部⑤をふまえ、対応するものをそれぞれ答えなさい。
- 傍線部⑤「かくのごとし」が指す内容を明らかにしたうえで、この一文が述べようとしていることを説明しなさい。
- この文章全体に流れている、仏教にもとづく「この世のすべては移り変わり、とどまることがない」という考え方を、漢字三字で何というか答えなさい。
- 【文学史】この作品について、(ア) 作者名、(イ) 作品のジャンル（種類）、(ウ) 成立した時代を、それぞれ答えなさい。
- 【文学史】『方丈記』は「日本三大随筆」の一つである。残りの二つの作品名と、それぞれの作者名を答えなさい。